

(3) 埼玉県学力・学習状況調査(令和6年4、5月実施)

※主な参考資料 帳票09、40

算数

| 学年 | 学力レベル | | | | 学習方略 | | | | | | 非認知能力 | |
|----|---|----------------|-------|------------|------------|----------|------|-------|--------|-------|-------|------|
| | R6レベル | 昨年度からの伸び(+or-) | R5レベル | | 柔軟的方略 | プランニング方略 | 作業方略 | 認知的方略 | 努力調整方略 | 自己効力感 | | |
| 4年 | 校内 | | | R6数値 | 3.7 | 3.7 | 3.6 | 4.1 | 4.1 | 3.9 | | |
| | 県 | | | 伸び +or- | | | | | | | | |
| | <p>1 考察(「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析(学力レベルは県との比較も参考にする))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内の学力レベルは埼玉県平均と同水準である。 ・学習方略の中では、「認知的方略」「努力調整方略」が埼玉県平均よりも秀でている。 ・一方で、「柔軟的方略」「プランニング方略」「作業方略」が埼玉県平均よりも低くなっている。 <p>2 成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思考・判断・表現が埼玉県平均よりも低くなっている。そのため、授業の中で自分の考えを説明させる時間をとる。 ・2つの時刻の間の時間を求めることができない児童が多い。そのため、文章問題に取り組むなど習熟をさせる。 | | | | | | | | | | | |
| 学年 | 学力レベル | | | | 学習方略 | | | | | | 非認知能力 | |
| | R6レベル | 昨年度からの伸び(+or-) | R5レベル | | 柔軟的方略 | プランニング方略 | 作業方略 | 認知的方略 | 努力調整方略 | 自己効力感 | 自制心 | |
| 5年 | 校内 | 5-B | 1 | 5-C | R6数値 | 3.7 | 3.8 | 3.4 | 4.1 | 4.0 | 3.8 | 4.0 |
| | 県 | 5-B | 1 | 5-C | 伸び +or- | 0.2 | 0.2 | 0.1 | 0.2 | -0.1 | -0.1 | 0.4 |
| | <p>1 考察(「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析(学力レベルは県との比較も参考にする))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力レベルは昨年度から1段階上昇している。学習方略と非認知能力については、努力調整方略と自己効力感が昨年度から0.1減少しているが、自制心は0.4増加している。 ・変化と関係の問題や図形の問題の正答率が県平均より約3ポイント低く、値によって変化する2つの関係を理解することや、形や角度など、その図形のもつ特徴を生かすことなどの思考力判断力表現力等の問題が苦手である。 <p>2 成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習方略の中では特に認知的方略、努力調整方略が、非認知能力の中では特に自制心がやや高い傾向にある。このことから、自分にとってやや難しい問題であっても、友達に聞いたり、先生に聞いたりしながらあきらめず、粘り強く取り組んでいる児童の割合が多いと考えられる。しかしテストになると無回答が多いことから児童の自己効力感を高める必要がある。変化と関係の問題や図形の問題の正答率が低いことについては、知識技能ではなく、特に生かす応用問題が苦手であるため、実体験を伴った授業を行い、理解を単なる知識技能に止めることがないように指導することからはじめる。そして、類似した問題を繰り返し解くことで、苦手意識を払拭する。 | | | | | | | | | | | |
| 学年 | 学力レベル | | | | 学習方略 | | | | | | 非認知能力 | |
| | R6レベル | 昨年度からの伸び(+or-) | R5レベル | | 柔軟的方略 | プランニング方略 | 作業方略 | 認知的方略 | 努力調整方略 | 自己効力感 | やりぬく力 | |
| 6年 | 校内 | 6-B | -1 | 6-A | R6数値 | 4.0 | 4.0 | 3.7 | 4.3 | 4.0 | 3.9 | 3.3 |
| | 県 | 6-B | 1 | 6-C | 伸び +or- | 0.1 | 0.1 | 0.0 | 0.1 | -0.2 | 0.0 | -0.1 |
| | <p>1 考察(「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析(学力レベルは県との比較も参考にする))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力レベルは昨年度に比べて1段階減少している。学習方略と非認知能力に関しては、柔軟的方略、プランニング方略、認知的方略において0.1ポイント上昇している。一方で、努力調整方略が0.2ポイント減少している。 ・「数と計算」では、四則混合計算や()を使った計算、小数の乗法の計算をする問題の正答率が県平均より8.4ポイント低く、大きな課題が見られる。記述式の回答について、約半数の児童が無回答であった。 <p>2 成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする)</p> <p>認知的方略の値が高いことから、学習活動の中で、自分の言葉で学習内容をまとめたり、伝えたりすることで内容の定着が図られていることが分かる。一方で、学習方略の中では努力調整方略が低いことが分かる。このことから、分からないところを教師や友達に聞くような時間を積極的に設ける等の方策をとっていきたい。</p> | | | | | | | | | | | |